

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 へき地医療従事者マインド養成事業費 (地域医療介護総合確保基金事業)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療福祉連携推進課 医療人材確保係 電話番号：058-272-1111(内3278)

E-mail : c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,217 千円 (前年度予算額： 2,079 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,079	0	0	0	0	0	2,079	0	0
要求額	2,217	0	0	0	0	0	2,217	0	0
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県では、医師の地域偏在等により、へき地においては特に慢性的な医師不足の状況が続いている。

将来医師になりたいと考えている高校生に対し、へき地医療の現場体験を通して、医師の仕事への理解やへき地医療への興味を持つもらうことや、将来の岐阜県の医療を担う医学生に対し、へき地医療に携わる医師から、へき地医療の現状やへき地での働きがいについて講義を行うことにより、へき地医療への理解を深めてもらい、数年後のへき地の医師確保につなげることが必要である。

(2) 事業内容

- ・へき地医療への理解を深めるための研修会を、研修医等の指導実績のある医療機関に委託して開催する。
- ・へき地医療への理解を深めるための講義を自治医科大学医学部生等に対して行う。
- ・医師のふるさと定着のための、研修会・意見交換会・病院訪問支援等を岐阜大学、市町村、地元医療機関等と共同して行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

県単独事業

※事業費全額について地域医療介護総合確保基金を充当

(4) 類似事業の有無

類似事業なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	150	講師謝金
旅費	353	委託先・大学等との連絡調整（県）、講師費用弁償等
消耗品費	20	事務費
会議費	20	会議用お茶代
役務費	16	事務費
委託料	1,658	へき地医療研修会の業務委託料
合計	2,217	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県保健医療計画（第8期）

第3部第2章 医療提供体制の構築

第9節 へき地医療対策

(2) 後年度の財政負担

へき地医療体制の安定的な運営の為、引き続き、支援していく必要がある。

(3) 事業主体及びその妥当性

へき地医療提供体制の確保は、市町村域を超えて、より広域的に取り組むべきものであること、また、保健医療計画上もへき地保健医療の普及と啓発を明記していることから、事業主体が県であることは妥当である。

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

へき地医療に対する理解をより多くの県民に普及し、へき地で勤務する医療従事者の増加を図るため、本事業を実施する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H26)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①へき地医療研修会参加者数	25	49	70	70	70	97%

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	へき地医療研修会を令和4年8月6日にWEB開催で実施した。平成22～令和4年度のへき地医療研修会参加者でR5.4時点に高校を卒業した者503名のうち、171名が医学部へ入学している。
	指標① 目標：80人 実績：79人 達成率： 98%
令和 5 年 度	へき地医療研修会を令和5年8月4日～8月5日に開催した。平成22～令和5年度のへき地医療研修会参加者でR6.4時点に高校を卒業した者544名のうち、186名が医学部へ入学している。
	指標① 目標：70人 実績：58人 達成率： 97%
令和 6 年 度	へき地医療研修会を令和6年8月2日～8月3日に開催した。平成22～令和6年度のへき地医療研修会参加者でR7.4時点に高校を卒業した者595名のうち、206名が医学部へ入学している。
	指標① 目標：60人 実績：49人 達成率： 82%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	高校生にとっては、進路選択についての参考となり、医学部生については、地域住民や高校生、臨床研修医等とともにへき地医療の現場を体験できる数少ない機会を提供する
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	毎年度継続して、多くの高校生・医学生が研修会に参加してへき地医療に対する意欲と理解を深めており、将来のへき地医療を担う世代の育成が図られた。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	へき地医療研修会については、へき地医療についての研修プログラムに精通した、医療機関に業務委託することでより効果的な事業展開ができた。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

研修会としての質をどのように維持していくかが課題となる。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

参加者や行事に協力いただける地域住民等からは、是非、継続をとの声が聞かれ。高校生の中には、今度は医学部生として研修に参加したいとの希望もあり、継続すべき事業である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	